

ボジョレー・ヌーヴォー速報 2018年

今年もボジョレー・ヌーヴォーの季節がやってくる！

2017年は、4月終わりから5月初めにかけてフランスの広範囲に被害をもたらした遅霜、そして2年連続フルーリー、モルゴン、ムーラン・ナ・ヴァンを襲った雹の被害、夏の猛暑と日照り、収穫直前に降った恵みの雨と、環境が大きく変わりながらも、最後に素晴らしいワインに仕上がった！

2018年、春は雨の多いスタートとなったが、ここまでブドウは順調そのものだ。果たして今年はどのようなミレジムになるのだろうか!?

☆ カリーム・ヴィオネ

今年は今のところ霜の被害も雹の被害もなく、ブドウは順調に育っている。このまま何もなければ、昨年雹の被害で収量が取れなかったランシエのブドウと、昨年新しく畑を取得したランティニエのブドウをアッサンブラージュする予定だ。開花はランシエが5月中旬、標高の高いランティニエが5月下旬に始まりわずか4日間で終わった。今年は房が多く、このまま行くと豊作が期待できそうだ。ただ、ひとつ気になる点としては、ブドウの葉が所々赤く色が変化していることだ。これは La carence en potassium (カリウム欠乏) とされる現象だが、特にブドウの収量が過度な時に起こりやすい。赤く葉が変色すると光合成が妨げられるため、ブドウの成熟に影響すると言われているが、個人的には経験上それほど深刻な現象とは思っていない。今のところ部分的なのでそのまま放置し、補填として海藻エキスをボルドー液散布に混ぜて散布し対処するつもりだ。今年の収穫は、このまま何もなく良い天候が続けば昨年よりも早く8月の終わり、遅くとも9月頭には間違いなく開始しているだろう。



やや赤みがかった葉



順調に生育するランシエの畑

☆ ジャン・フォワヤール

今年の開花は5月終わりに始まった。早熟だった昨年よりもさらに1週間ほど早い開花だ。今のところ病気もなくブドウの房もいつも以上に多く実っているので、ドメーヌとしては非常に喜ばしいことだ。だが、ここ2週間ほど続いている猛暑や局地的な豪雨、年々ブドウの成長が早まっている現象をみると、明らかに地球規模の気候変動が起こっていると言いか言いようがない。天気予報はほぼ毎日雷雨と雹の注意報が出ているし、今現時点でブドウが完ぺきだとしても、翌日雹で全滅してしまうリスクがあることを忘れてはならない。今年の収穫は、前年同様に9月の初めを予想している。ただし、このまま猛暑が続くようであれば、8月の収穫もあり得るかもしれない。



病気や房付きも全く問題ない



畑全体を見渡しても問題は見当たらない

☆ フレデリック・コサール&ケヴィン・デコンブ

昨年のブドウ開花は、標高が最も高いマルシャン村の畑で 5 月終わりに始まった。ブドウの熟しが早かった去年よりもさらに 1 週間早い開花だ！ 2 年連続房が少なかった影響なのか、今年は久々にブドウがたくさん付いていて、大豊作が期待できそうだ！ このところ日中の気温が 35℃ を超えるような夏日が連日に渡って続いているが、春に多く降った雨のおかげで、今のところ水不足の心配もなく、ブドウの実も大きく健全に育っている。また、病気においては、他の地域でミルデューの被害を多く耳にするが、このヌーヴォーの畑は幸いにしてミルデューの染み跡一つなく、ほぼ完璧な状態を保っている！ ただ、天気予報では毎日のように積乱雲の発生警報があり、昨年 7 月の雹の被害の例もあり、まだまだ予断を許さない状況だ。今年はブドウの成長ペースが去年同様に早いですが、ブドウの房が多い分熟するのに時間がかかるため、収穫日は 9 月 15 日前後で考えている。



例年に比べて房付きは多め



マルシャン村の畑はかなりの急斜面

今のところ 3 生産者共にブドウの成長は順調で、さらに今年は収量も期待できそうだ！ ただ、猛暑がもたらす局地的な雹のリスクがあることを忘れてはならない。例年を見ても 7 月～8 月前半とここからが最も危険な時期を迎えるが、今年こそは是非ともこのレッドゾーンを何事もなく切り抜けていただきたいと願っている。次のレポートも乞うご期待ください！

2018 年 7 月 4 日訪問レポート